



子どもの頃からの夢を実現 ものづくりの観点で創薬研究

製薬業を目指して 薬学部でなく工学部へ

現在私は、創薬研究を行っています。化合物の新規性、物性、薬物動態、安全性等を考慮してデザインを行い、生理活性物質の合成をする、いわば新薬開発の原点といえる工程です。

私が製薬業に就いたのは、病気で笑顔が消えた母を救ってくれたのが「薬」だったから。科学の力で病気に苦しむ人々を救いたくて、名古屋工業大学に進学しました。工学部を選んだ理由は、ものづくりの精神が新薬を生む原点になると考えたのです。実際に私が専攻した生命・物質工学科では、生体内での科学現象の解明や最先端の医薬品合成などを幅広く学ぶことができ、今の仕事に活かしています。

妊娠・出産をチャンスに換えて

現在、第2子育児休業中ですが、2人の妊娠・出産は、私にとって大きなチャンスとなりました。妊娠中は身体へ無理な負担もかけられませんし、第1子もまだ小さく時間にも制約がある中での業務となりました。仕事に集中



産休育休中は時間をかけて勉強できるチャンスととらえ、子どもの午睡中に論文を読んだり、技術習得にも励んでいます。

しにくい状況下ですが、新しい合成技術の習得や創薬研究の成功率を上げるための予測計算などを積極的に行う中で、効率よく業務を進める方法をどんどん見つけていきました。それが評価され、新しいことに挑戦するチャンスもらえるようにもなりました。現状、女性比率は1割程度ですが、思う存分仕事ができる環境に感謝しています。

日本の新薬創出の 中心的科学者に

現在日本では、300以上の疾患が難病に指定され、有効な治療法が見つかっていません。病気に苦しむ人々を救うのは、創薬化学者としての私の使命であり、子どもの頃からの夢。苦勞を

林 睦代さん

大塚製薬株式会社
創薬化学研究所 研究員
名古屋工業大学
工学部 生命・物質工学科卒業
名古屋工業大学大学院
工学研究科 博士後期課程
未来材料創成工学専攻修了

惜まず、日本の新薬創出の中心的な役割を担う研究者になるべく、研究を続けていきたいと思っています。

女性研究者の比率がまだまだ低い日本ですが、新しい発見と向き合うことのできる環境が整っている名古屋工業大学から、もっと女性科学者が生まれていいはず。自分のやりたいことに素直に進んでほしいと、応援しています。



博士後期課程2年の「2013年度 ロレアル・ユネスコ 女性科学者 日本奨励賞」の受賞時に、日本を代表する女性科学者になりたいと決意



金属材料の研究を通して社会に貢献するのが夢 好きな研究を長く続けていきたい

博士号取得、一般企業 勤務を経て母校へ

大学院から現在まで、アルミニウム合金の組織制御による特性向上に関する研究を続けています。輸送機器の軽量化を実現するための基礎研究です。大学院(修士)時代、同じ学会で活躍されていた女性の、留学や研究に打ち込む姿勢に影響を受けて博士課程への進学を決意。その後、企業での研究に興味を持ち、製造現場を見たい気持ちも手伝って、アルミニウムメーカーに就職しました。企業でしかできない体験から多くを学び、しかし基礎研究を重点的に取り組みたいの思いから、母校、名古屋工業大学で教鞭をとることを選びました。

すべての物の根源である 「材料」研究を継続

高校卒業時、すべての物の根源である「材料」の研究に興味を持ち、材料工学への未知なる可能性を感じて名古屋工業大学工学部環境材料工学科に入学。学部4年間の学びが、私が研究を続けるうえでの土台になって

おり、この選択をして本当によかったと、今、改めて思っています。

2019年に「第11回軽金属女性未来賞」を、2021年に「第1回希望の星賞グランドチャンピオンシップ最優秀希望の星賞」を受賞しました。目の前のをやってきただけのつもりでしたが、振り返ってみれば、長く続けられたんだと感慨深い思いです。

自分の道は自分が切り拓く!

名工大の教員公募に応募するとき、息子が生後6か月だったので心配事もありました。しかし、基礎研究は自分の裁量で進められますし、大学の業務にも支障なく現在まで勤めることができています。ここで実績を重ねて、いつかは教授職に就けるよう、精



強わずみ加工で得られたアルミニウム切削屑の成型体。材料の特性向上やメカニズム解明を目指し、日々学生とともに研究に取り組んでいます

成田 麻未さん

名古屋工業大学 理工学教育類
材料機能分野 助教
名古屋工業大学
工学部 環境材料工学科卒業
東京工業大学 大学院 理工学研究科
材料工学専攻修士課程・博士課程修了

進みたいと思っています。息子を連れて国際会議に参加することも夢の一つ。学生時代に滞り研究をしたノルウェーなど、海外で研究を行いたいとも思っています。

理工系で活躍する女性は、数字としてまだ少ないのかもしれませんが、興味のあることに突き進むことが大事ではないでしょうか。思いを強く持ち、それを貫く気持ちが、自分の道を拓くと信じています。



自分の興味に従って長年にわたって研究してきたことが評価につながりました。特に女性未来賞は、授賞式が産直後で、二重の喜びに